

わたしたちも
もっと学びたい!

主催／愛知に学びの場を広げる会
～障がいのある子の18歳以降を考える～



日本福祉大学 伊藤修毅教授 講演会

障がいのある青年たちとつくる

「学びの場」

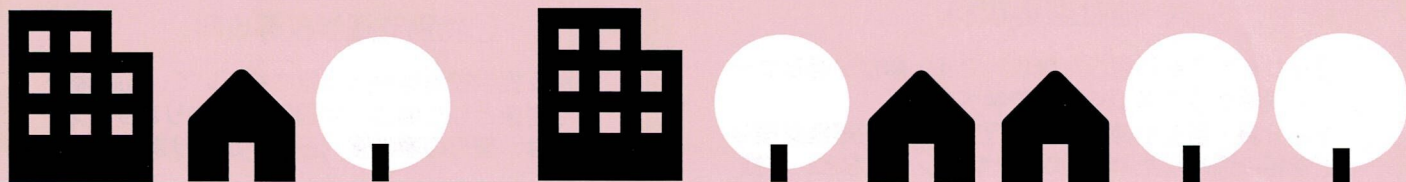
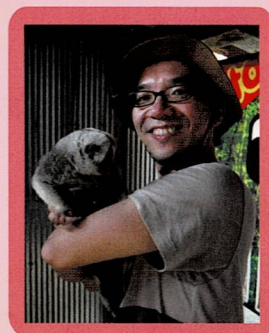
～ステキな人生を
歩いていくために～

障がいのある子の18歳以降にも、学びの場があることをご存知ですか？

知的障がいや発達障がいのある子どもたちは、その時々に必要な支援を受けながら、特別支援学校の高等部や高校を卒業します。そして卒業後は、それぞれの能力や希望に合わせて、一般企業に就職、もしくは就職に向けた職業訓練、または作業を行う事業所など、多くの人が18歳で就労を始めます。

「まだまだ発達の途上にある障がいのある青年たちですが、
就労以外の道はないのでしょうか？」

そんな問いに答えるべく、全国では高等部卒業後の学びの場が増えてきています。愛知にもこの学びの場が広がることを願い、日本福祉大学の伊藤修毅教授に「障がいのある青年たちの学び」についてお話を伺います。



日時

12/14(日) 9:30～11:30

講師のご紹介

会場

ウィルあいち
愛知県女性総合センター
3F 大会議室

参加費

無料

日本福祉大学教授
元高等養護学校教諭
障がいのある子ども・若者の性教育、高等部卒業後の青年期教育などの研究をしている。

定員

150名

障がいのある子の保護者の皆さん、福祉・療育や特別支援教育に関われる方など、どなたでもご参加いただけます。
皆さまのご参加をお待ちしております。

instagram
追加情報



@A_MANABINOBA

お申込はコチラ

申込期限 12月5日(金)

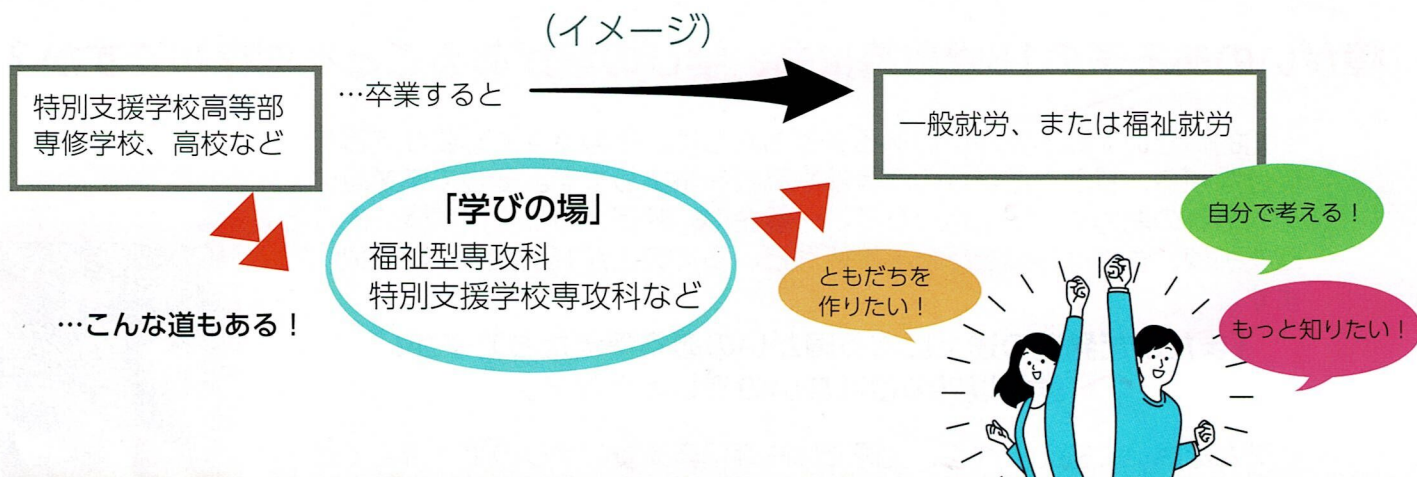


後援／名古屋市教育委員会
問い合わせ／aichi.manabinoba@gmail.com

知的障がいや発達障がいのある子どもたちは、特別支援学校の高等部や高校の卒業後は、それぞれの能力や希望に合わせて、一般企業に就職、もしくは就職に向けた職業訓練、または作業を行う事業所など、多くの人が18歳で就労を始めます。

18歳で社会人になりますが、就労しても様々な要因でつまづきやすく、3人に1人が離職すると言われています。

社会人になる前に、仲間とともに自分にあった学びを深め、多様な経験を積むことは、社会人になるための準備期間となります。学びの場（専攻科など）での準備期間を経て、より自分らしい人生を自分の足で歩くための力をつけていけると思います。



「学びの場」の紹介

○福祉型専攻科

福祉サービスを活用した専攻科です。障がい福祉サービス受給者証に基づく負担で学べます。

生活介護・自立訓練・就労移行支援・就労継続支援などを組み合わせた4年間の福祉型カレッジなど、年数や形態は様々あります。

- ・みらいカレッジ（福岡、三島、成田）
- ・ゆたかカレッジ（関東・沼津など10箇所）
- ・ぽぽろスクエア（大阪）
- ・フォレスクール（和歌山）

など全国には、多数あります。

○特別支援学校専攻科

特別支援学校高等部に設置されていて、知的障がいを対象とした場合、全国に10校あります。近隣では、聖母の家学園（三重）があります。

○NPO法人が運営する父母立の学園

NPO法人 見晴台学園大学（名古屋市）
〈自立訓練・地域活動支援併用利用〉

introduction

愛知に学びの場を拡げる会 ～障がいのある子の18歳以降を考える～



私たちは障がいのある子の保護者で、子どもたちが生涯にわたって自分らしく生きることができる社会を願っています。健常の子どもと同じように青年期に学びを深めることが大事だと思い、講演会を企画しています。会として、障がいのある子に学びの場の機会を繋げていきたいと思っています。

障がいのある子の「学びの場」は全国に増えつつありますが、愛知では1990年の見晴台学園設立以降、あまり拡がっていない状況です。まずは、より多くの方に知っていただき、愛知に「学びの場」が拡がるよう活動を進めていきたいと思っています。昨年の「はじめの一步」に引き続き、今年は「よちよちの二歩目」。日本福祉大学、教育・心理学部の伊藤修毅教授をアドバイザーにお迎えし、活動を拡げていけそう♪

一緒に活動するメンバー、応援して下さる方をいつでも歓迎します。興味のある方は、お気軽に会のスタッフにお声かけください。MailやDMでもお待ちしております♪

